全体的な傾向

松本市の回答の状況が、全国平均と比べて大きく異なっている主な項目は、以下のものです。（カッコ内の数値は、全国との比較）

□「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
　＜当てはまる・どちらかといえば、当てはまる＞ 89%（＋26）

・「放課後（週末）に何をして過ごすことが多いですか」（複数回答可）

〈放課後〉
- 家で勉強や読書をしている。70%（＋６）
- 友達と遊んでいる。66%（－９）
- 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している。25%（－７）
- 習い事（スポーツに関する習い事は除く）をしている。40%（－７）
- スポーツを（スポーツに関する習い事を含む）している。41%（－７）

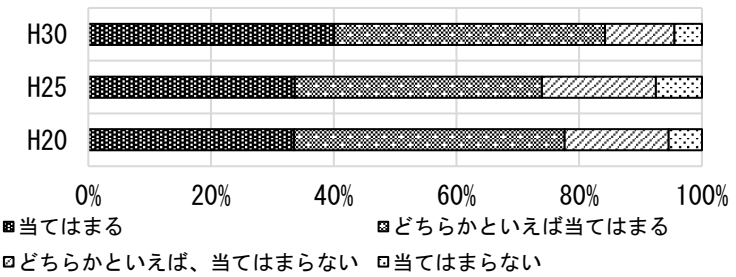
〈週末〉
- 家で勉強や読書をしている。64%（＋５）
- 友達と遊んでいる。54%（－10）
- 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している。10%（－６）
- 習い事（スポーツに関する習い事は除く）をしている。21%（－５）
- スポーツを（スポーツに関する習い事を含む）している。39%（－５）

今年度の主な特徴

１　自己肯定感の高まり

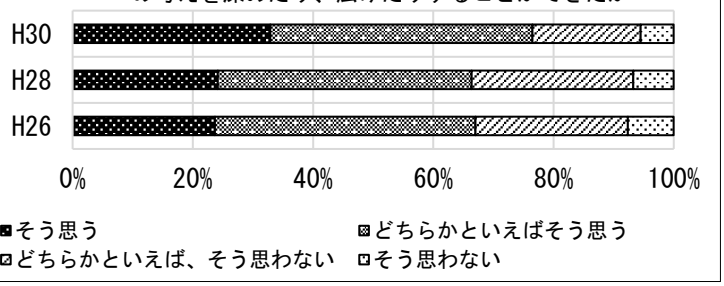
図１は、「自分には、よいところがあると思いますか」という「自己肯定感」に関する質問の回答について、10 年間の経年変化です。肯定的に答えた児童の割合が増え、10 年前に比べ約７ポイント高くなっています。

図１　自分にはよいところがあるか



自己肯定感を感じる児童の割合が増えてきた背景には、授業改善として取り組んできた「授業がよくなる３観点（ねらい・めりはり・みとどけ）」の授業スタイルが定着し、関わって学ぶ場面を大事に「話し合い活動」が行われてきたことが考えられます。それは、図２「学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」という「対話的な学び」に関する質問の回答について、肯定的に答えた児童の割合が、５年前に比べ約９ポイント高くなっていることからもいえそうです。話合いの中で、自分の意見のよいところを友達に認めてもらったり、友達の考えを受け入れたりする経験を積み重ねることによって、徐々に「自己肯定感」を感じることができるようになってきていると思われます。

図２　学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか

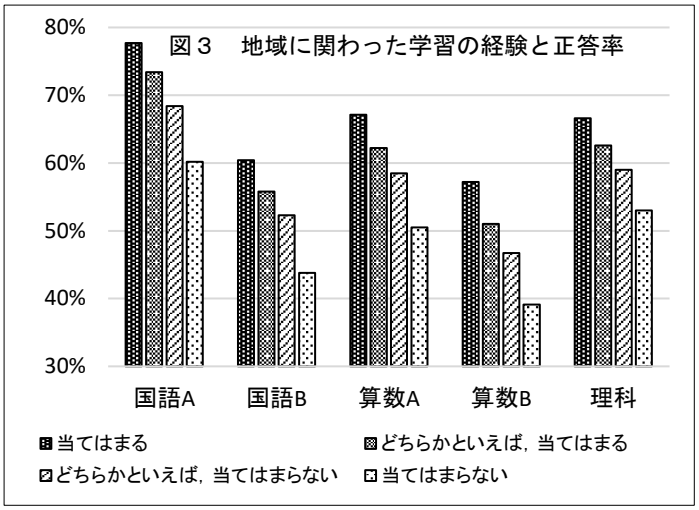


また、松本市で平成 25 年に「松本市子どもの権利に関する条例」が制定され、市全体で子どもの権利を大事にした取組をしてきたことや、それを受けて各学校において人権教育月間などを設け、自己肯定感を高める取組を続けてきたことが、成果として表れてきたと考えられます。

学力状況と生活・学習実態との相関関係

１　地域に関わった学習の経験と正答率

「５年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」の設問をグラフにした図３から分かるように、地域に関わった学習を経験している児童ほど、各教科の正答率が高くなっています。

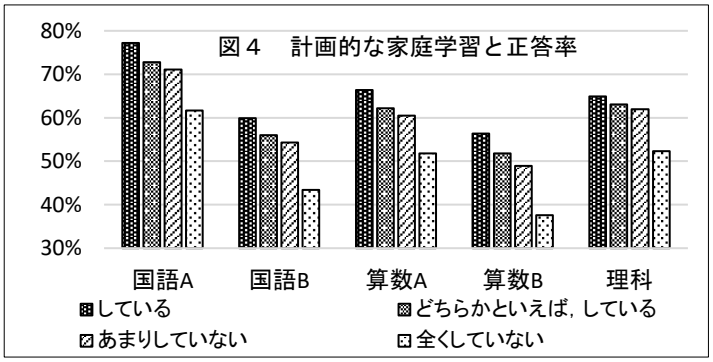


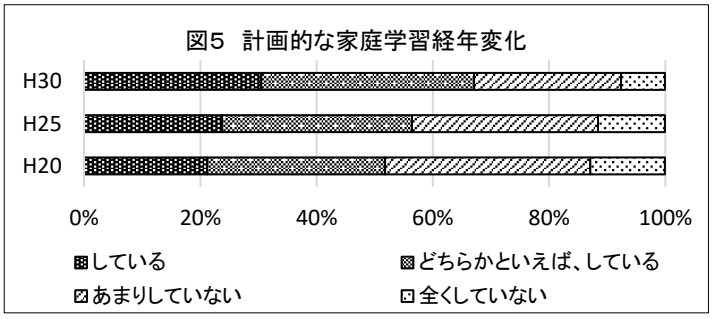
身近な地域を題材にした学習は、児童が「おや、なぜ、どうして」という問題意識をもちやすく、子どもたちが身体全体で対象に働きかけ、関わっていく活動を仕組むことができます。こうして展開される主体的・対話的で深い学びにより、各教科において、見方・考え方を働かせ、目標とする資質・能力の育成が図られます。

今後ますます家庭や地域の人々の積極的な協力を得て、児童生徒にとって大切な学習の場である地域の教育資源や学習環境を一層活用していくことが求められます。

２　家庭学習の状況と正答率

「家で計画を立てて勉強していますか」の設問をグラフにした図４から分かるように、計画を立てて家庭学習をしている児童と、そうでない児童では、各教科で 15 ポイント程度正答率に大きな開きがあります。学校と家庭が連携して、家庭学習の改善に取り組んできた成果も経年変化からは読み取れます（図５）。





今後、その中身の充実を図るために、家庭との連携を図りながら、授業と連動させたり、児童の興味・関心を大切にしたりして、学力の向上につながる学習習慣が確立するよう配慮していくことが大切です。

まとめ

朝食をとっている（肯定的な回答：95%）、決まった時刻に起床し（肯定的な回答：90%）、就寝している（肯定的な回答：81%）といった基本的な生活習慣がきちんと身に付いている様子が今回もうかがえます。一方で、放課後の過ごし方や週末の過ごし方をみると、動画を見たり、ゲーム・インターネットをしたりしている児童が 78%と多く、地域や家族以外の人と関わることが少ない様子もあります。学校での教育活動以外の場面でも活動できる場を、地域のさまざまなものを生かしながら、学校、地域、保護者が連携して構築していくことも必要と思われます。